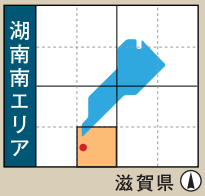
天然記念物
国指定

石山寺硅灰石（いしやまでらけいかいせき）

大津市石山寺辺町　大正11年3月8日指定



石山寺の境内には、怪しくうねる巨岩が、あちこちに露頭しています。これが天然記念物に指定されている硅灰石で、石山寺の本尊如意輪観音も硅灰石の上に坐しています。「石山寺」の名は、この岩からとられたものです。また、近江八景「石山秋月」は、硅灰石に建つ伽藍を背景に、静かにのぼる満月の神秘的な景観を愛でたものです。



石山寺硅灰石

石山寺について

石山寺は、天平勝宝元年（749）に聖武天皇の勅願により、東大寺の僧良弁によって創建されたと伝えられています。しかし、東大寺の建立に際して、高島と甲賀から用材が運ばれ、その集荷を管理するための役所として、天平宝字6年（762）に「石山院」が設置されますが、この施設が、石山寺の前身となったとの考えも有力です。当初は、華厳宗の寺院でしたが、10世紀の初め頃に真言宗に改められ、真言道場として現在に至っています。

平安時代には、観音信仰の霊場として、朝廷を始め広い崇敬を集め、「和泉式部日記」や「更級日記」には石山寺参籠のことが生き生きと記されています。また、紫式部が、石山寺で「源氏物語」の須磨、明石両巻を執筆したという伝承も生まれました。観音霊場としての石山寺は現在も厚い信仰を集め、西国巡礼三十三ヵ所第十三番札所として、多くの善男善女が訪れています。また、県内最古の仏堂である国宝本堂を始め、数多くの文化財を伝えています。



硅灰石の上に建つ多宝塔（国宝）

石山寺硅灰石

硅灰石は、不純物を含む石灰岩層に花崗岩が貫入したときに、熱により変化した、珪酸カルシウムを主体とした接触変成鉱物です。岐阜県春日鉱山や福岡県喜久鉱山など、全国各地で産しますが、石山寺のものは、地層面に沿って硅灰石が多数集合し、これが風化し独立した岩塊として露出しており、国内の硅灰石の中では規模も大きく、特に有名なものとして、天然記念物に指定されています。

硅灰石は、低い温度でしかも、短時間で焼き上がるうえに、焼成収縮が少なく、強度に優れ、表面の仕上がりも美しい、といった特徴を持っていることから、タイル素地や釉薬といった窯業原料として利用されています。

関連する文化財

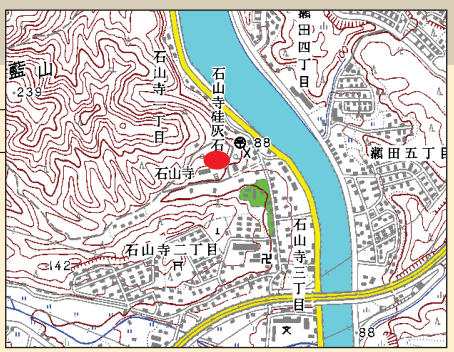
綿向山麓の接触変質地帯（日野町）	学習シートNo.116
石山寺境内	近江八景「石山秋月」の舞台。天然記念物石山寺硅灰石と堂舎を映し出す秋の月

もっと深く知りたい

大津市教育委員会	☎077−528−2638　大津市御陵町3−1
琵琶湖博物館	☎077−568−4811　草津市下物町1091

※珪灰石（$CaSiO_3$）は普通は"珪„の字を使います

石山寺硅灰岩へのアクセス　JR琵琶湖線　石山駅下車
京阪電鉄石坂線　石山寺駅下車



【参考文献】〔日本の天然記念物〕講談社　〔大津の文化財〕大津市教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月